

---

## 都立技術専門校のインターンシップ

### —台東分校製くつ科での紹介—

東京都立足立技術専門校台東分校

---

#### 〈インターンシップとは？〉

都立技術専門校では、平成13年度から職業訓練の一環としてインターンシップを導入しています。

インターンシップとは、企業の現場などで「自分の学習内容や進路に関係した仕事を体験する」ことです。インターンシップは、生徒の自己の適性判断や職業選択の一助とするため行っています。

#### (1) 導入のメリット

・生徒のメリット

- ①実際の業界の実態や技術に触れることで、訓練意欲が高まる。
- ②職業選択や働くことについて考える機会となる。
- ③さまざまな世代の人たちとのコミュニケーションにより、就職後の適応力が高まる。

・受入企業・業界のメリット

- ①企業のPRやイメージアップが図れる。
- ②技術専門校に対して受入企業や業界の要望を伝えることができる。
- ③意欲的に仕事に取り組む人材が発掘できる。

ことです。

#### (2) 実施の概要

- ①インターンシップの対象者は、参加を希望する都立技術専門校の生徒です。
- ②受入企業は、訓練内容に合った業務を

行っていて、制度の趣旨に賛同をいただいた企業です。

- ③生徒には、万一の災害に備えて災害傷害保険及び損害賠償保険に加入させます。
- ④実施時期及び期間は、基本的な訓練が終了した時期で、10日間以内です。
- ⑤就業時間は、企業の昼間の就業時間帯の範囲内で8時間以内です。

#### (3) 実施上の留意点

- ①インターンシップは、訓練の一環として実施するため、受入企業において交通費や賃金（アルバイト料）等を支給する必要は一切ありません。
- ②ただし、受入企業が受け入れにあたり特に用意した材料、道具等の費用は企業負担となります（これまで、こうした事例はありません）。
- ③受入企業は、インターンシップに名を借りた早期の採用活動は行わないよう留意していただきます。
- ④受入企業は、安全の確保や事故などの防止に十分注意していただきます。

#### 〈台東分校のインターンシップの実績〉

##### (1) 実施時期及び受入企業の選定

台東分校のインターンシップは、平成13年度から始まりました。実施時期は、基礎的な製くつ訓練が終了し、応用訓練が進ん

だ時期で、就職に関する予備相談が始まる11月上旬が良いと判断し実施しています。

受入企業の選定にあたっては、東都製靴工業協同組合をはじめ関係業界団体や個別靴製造メーカー等のご協力をいただき、当校が希望する実施内容と企業の受入可能な作業内容など、条件が一致した企業を選定し決定しています。

## (2) 生徒の参加状況

①平成13年度は、11月6日(火)から9日(金)の4日間で実施し、生徒21名中、参加者17名、受入企業11社で、参加者全員が事故もなく終了しています。

②平成14年度は2回実施しました。第1回目は、11月5日(火)から8日(金)の4日間で実施し、生徒20名中、参加者20名、受入企業14社で、参加者全員が1日の欠席もなく終了しています。

第2回目は就職前研修として実施しました。就職が内定した5企業・8人の生徒が2月14日から3月20日の間で、1人2～5日間、8人で延べ23日間の現場実習が実施できました。

③平成14年度第1回目の受入企業や参加生徒の感想は別表の通りです。靴製造に対する生徒の考え方は、インターンシップに参加する前と後では、ずいぶん違ってくるようです。

④インターンシップ実施期間中は、教職員が実習現場を訪問させていただき、企業の指導者から生徒の取組状況等について、話を聞かせていただきました。

## 〈今年度の協力依頼〉

台東分校では、平成15年度も生徒全員(20名)がインターンシップを体験し、靴製造メーカー等の就業の実態に触れること

により、自己の適正を自覚し、確実に就職活動に反映させることができる、こうした企業・生徒の双方にとって実りあるインターンシップの実施を計画しています。

インターンシップは、地域や関係業界団体の皆様のご協力があって初めて実施できるものです。靴製造メーカー等の方々をはじめ、関係団体・関係行政機関のご理解・ご協力をよろしくお願いします。

台東分校生徒のインターンシップの実施や受入については、直接台東分校までお問い合わせください。



インターンシップ風景

足立技術専門校台東分校

tel : 03-3843-5911

fax : 03-3843-8629

担当：訓練係 秋吉、石島

受入企業の感想・意見の要約（敬称略、順不同）

| 企業名<br>(製造品目)           | 感想・意見の要約   |
|-------------------------|--|
| (有)サン・三国製靴<br>(婦人靴製造)   | 実践向きの実習をした。具体的には、底付けの月型入れ、踵成形、踵高さ決め、糊塗り、ふまず釣込み直し、まくりサライ等である。生徒の理解の早さに驚いた学校が靴業界の必要とする技術を教えているのだと感じた。又、社員にも良い勉強になった。   |
| (株)ロマン<br>(婦人靴製造)       | 生徒は、現代的で明るく、会話もでき、素直で好印象を受けた。機械操作も飲み込み早く、器用にこなしていた。指導担当者からは、思っていた以上にできると報告を受けた。基礎は充分できているので、応用へのチャレンジは、自分の考えを持ち、仕事の方程式を作り、新たなことにチャレンジする、そして、この部門は俺に任せろといえる「切り札」を持った人間に成長して欲しい。 |
| ラッセル(有)<br>(婦人靴製造)      | 4日間という短い期間でしたが、真面目に仕事に取り組んでいた。機械も簡単な説明で無難にこなしていた。ただ、仕事が一日中立っての作業で大変そうだった。  |
| サンダー商事(株)<br>(紳士靴製造)    | なれない仕事を良く頑張っていた。最後の二日間で二人とも自分なりの靴を仕上げたと思う。これから進路に向けて大変だと思うが、当社での経験が少しでも役立てばうれしい。自分の進むべき道を見つけて頑張ってください。   |
| パイロットシューズ(株)<br>(婦人靴製造) | タイミング的に生産が一番減っていた時であり、十分な研修を準備できなかった。二人とも礼儀正しく、靴作りに対する興味と意欲を感じた。今後、日程の問題や実施頻度を検討し、インターンシップのもつ可能性をより高めてもらいたい。   |
| (株)らんそん<br>(婦人靴製造)      | 靴の製造工程を殆ど実習させた。既に、ある程度の知識をもっており、指導するほうもスムーズにできた。明るく意欲のある生徒で、将来が楽しみである。インターンシップの受入は、初めての経験で至らぬ面もあったが、無事修了しホッとしている。  |
| (株)大仁商店<br>(義肢装具製造)     | 二人とも研究心があり、技術を習得しようとする意気込みが感じられた。全体的には特に問題はないが、いろいろなことを数をこなすことにより上達していくものと思う。4日間という短期間なので、他の部署を経験させられなかった。   |
| (有)ウィート・ジャパン<br>(婦人靴製造) | 靴に対する興味と感心を持っているのが感じられた。何かそれを生かせる仕事が見つけられたら、今の靴業界も変わってくるような気がする。現実には、受け入れるところが少なく残念です。   |
| (株)シャミオール<br>(婦人靴製造)    | 入校7ヶ月ということであるが、よく勉強されていて、知識も豊富で礼儀正しい。また、靴造りに対する意欲も見受けられた。  |
| キャナリー製靴(株)<br>(婦人靴製造)   | 勤務成績も良く、大変真面目で、責任感が強く、積極的に仕事をしていた。仕事は、一日中立ち作業で仕事の大変さを感じたと思います。今回の実習で得たことを、今後の学業に役立てることを願っています。   |
| (株)ヒロエシューズ<br>(婦人靴製造)   | 学校と業界のコラボレーション、生徒の現場体験は素晴らしい企画です。僅か7ヶ月の間に、生徒と先生が一体となって訓練指導が進行している様子に感動しました。本人のやる気や器用度にもよるが、若い人が業界に定着してもらえれば大変嬉しい。  |
| (株)アキオ製靴<br>(紳士・婦人靴製造)  | 指導者の指示に従い、真面目に実習をし、現場の流れ、製品作りの難しさを理解してくれたようです。学校では経験できない新しい作業も実体験し、今後の勉強に役立てていただきたいと思います。  |
| (株)ナガセ<br>(紳士・婦人靴製造)    | 意欲的に仕事に取り組む姿勢が見られた。4日間という短期間での技術の習得は難しい。しかし、基本的なものはしっかりとしていた。  |

### 参加生徒の感想 (Noは生徒番号)

| 実習業種             | 感 想   |
|------------------|---|
| No.1<br>義肢装具製造   | 初めの2日間は製甲部門にいき、型紙とりから製甲まで一通りやった。型紙の左右があっても内と外がないことや、左右の長さ、幅が違うこと、そしていかに早く仕事をするかを知った。後半2日は底付け部門で作業をした。履き心地を良くするために、あらゆる工程があって、その一つひとつを丁寧にこなす仕事は、普通の製甲とは全く違うことが分かった。技術ばかりでなく、仕事に対する姿勢も学ぶことができ、今後の靴作りに役立てていきたい。      |
| No.2<br>紳士靴製造    | 作業して感じたことは、現場の人の作業は正確で早いこと、また、若い人も工場内の作業は一通りできるということでした。これからの職人は、一つのことだけに精通するだけでなく、会社や工場内のことを全体的に見れる広い視野を持つ必要性を感じた。指導に当たった方々は皆親切で、一つ一つの作業が良く理解でき、親身になって教えていただきありがたく思いました。   |
| No.3<br>婦人靴製造    | 婦人靴プレーンパンプスの製作手順を各部門で実習した。機械作りが主であるが、随所に機械任せではない、商品としての仕上がりの美しさを出すための手作業が加えられていたのが印象的だった。機械だけでは、それなりにしかできないけれど、手を掛けることにより格段に仕上がる。また、手作業が加わると途中の工程に影響したり、生産速度が問題となるが、集中力と無駄のない動きで補うプロの仕事をもっと知りました。                 |
| No.4<br>婦人靴製造    | 前日に本底張りが終わっている靴をプラ型から抜いたり、袋モカ、ポロネーゼの製甲をプラ型に入れる作業を行ったり、ライン作業でサイド釣込みやヒールシートなどの作業を行った。ライン作業は単調だが、一つ一つの靴を同じ仕上がりにすることは大変難しく、緊張感がありとても良い勉強になった。   |
| No.5<br>婦人靴製造    | 歩止まりを考慮した型入れや仕上がりの綺麗なスキの仕方を教わった。ブーツの裏貼りが難しかったが、しわをなくす方法を職人さんの手際を見て学んだ。職人の皆さんは、技術に長け効率の良い仕事をしていた。また、材料の管理や工程の管理をきちんとしなければ、いい靴はできないことや、経営者の方針が明確で、先見性があり、従業員との信頼関係がしっかりしていないと質の高い商品に結びつかないことを知った。                   |
| No.6<br>紳士・婦人靴製造 | 作業実習は、糊塗り、本底圧着、熱風仕上げ、中底仮止め、月型入れ等のライン作業を行った。作業自体は単純だが、自分の工程で間違えると次からの工程に間違えたものが大量に流れてしまうので、一つの工程でも責任が重いことを実感した。短い期間ではあったが貴重な体験ができ、職場の皆さんにいろいろと教えていただき感謝している。今となればもっと質問をしておけばよかったと反省している。この体験を無駄にしないようにこれから励んでいきたい。 |
| No.7<br>婦人靴製造    | 型紙、製甲、底付け、仕上げと各部門で貴重な体験をした。改めて経験の足りなさを痛感した。あれほど練習をしたミシンも本当にひどく、担当の方は「最初だからこんなもんだよ」と言ってくれたが、それが余計に悔しかった。今以上に練習を積み、自分に足りないこと、それを見つけるべく改めて自分を見つめなおしたいと思う。  |
| No.8<br>婦人靴製造    | 今回は主に、仕上げ作業、納品、サンプルの手直し等を行った。「製品になる靴」という緊張感から、あまり積極的に仕事に関わらなかったのではないかと反省している。また、会社に入社する様々な分野の人達から靴業界の話が聞けたこと、特に、社長さんの「会社を興す厳しさ」の話は、靴作りを仕事にしようとしている私の指針となり、自分の靴作りの方向性、目指すべき目標ができた。                                 |
| No.9<br>婦人靴製造    | 作業に当たり努力したことは、実際の製品になるものなので失敗しないように注意した。そして、もっともっと数をこなし、正確で早い作業で取組まなければいけないことを実感した。これまでの訓練では得られなかった工程や、別なやり方を学んだ。特に、底付け作業で学べたことが多かった。このことを忘れずに今後の訓練に生かしていきたい。   |
| No.10<br>婦人靴製造   | 最初の二日間は、甲革の裁断、スキ、ラバ塗り、ミシンの縫い割、裏革の貼付けを行った。残り二日間は、中敷の貼付けなど仕上げ作業を行った。製造婦人靴は、価格も高く、繊細な作りのもので、技術力の高さを感じた。また、少しのミスが後々トラブルに繋がり、売上のロスにも繋がるなど、学校では得られない知識や技術を勉強することができた。これからの訓練や人生で役立てていきたい。                               |

| 実習業種              | 感想   |
|-------------------|--|
| No.11<br>紳士・婦人靴製造 | 実習企業では、主にステッチダウンとプラット（カップソール方式）で靴を製造していた。作業内容は、製甲作業とステッチダウンの底付け、プラットの底付けを実習した。学校では習っていないことや、知識としてしか知らなかったことを実際の現場で体験でき大変役に立った。   |
| No.12<br>婦人靴製造    | 4日間を通じて検査作業に従事した。キチンと箱に納まっている靴を取出し、検査して元の状態に戻す作業です。箱から取出す際に、いかに検査しやすくするか、検査後の靴はできるだけ早くしまい、作業スペースを広く保つことに努めた。検査足数は、1日に2～300足ほどあり、作業動作を覚えると靴を見ることができ、同じ靴でも一つ一つが微妙に違う感じに仕上がっているのが良くわかった。ライン生産においても人手がどれだけ重要な位置にあるかを痛感した。  |
| No.13<br>婦人靴製造    | 製甲部門は主にサンプル作り、底付けはセメント製法で機械が充実していた。実習内容は、底付けの下ごしらえで、アップパーの月型入れ、釣込み後の機械起毛作業、踵整形機操作、起毛後の接着剤塗りの繰返し作業を行った。4日間と限られた時間で作業を体に“シミ”着けることまではできないが、職人さん達と会話を持つように心がけた。メーカーの仕事を間近で見れたのが収穫で、今後の学校訓練に役立たい。   |
| No.14<br>義肢装具製造   | 義肢装具は、今までの知識では考えられないことまで教えられ、大変勉強になり有意義な時間を過ごすことができた。医療靴は、革が厚く釣込み方法が異なり、悪戦苦闘した。短い時間で一番学んだことは、製甲、底付けの技術よりも医療靴を作る上での心構えです。左右両方の靴の止め具が同じ方向を向いていたので、間違いではないかと尋ねたら、片手に障害があり一方の手しか使えない人もいる、医療靴を履く人は足だけに障害があるとは限らないことを知った。今までにない新しい発見ができ、大変良かった。教えられたことを今後役立てていきたい。 |
| No.15<br>紳士靴製造    | 実習作業で感じた一番の違いは、作業に対する責任感だと思った。スピードと品質が求められ、流れ作業の一部を担うプロの職人と私達とでは、ここが大きく違うと感じた。また、仕上げ作業で感じたことは、この作業に手間を十分かけることで商品価値が何倍にも上がることを知った。更に、専門校で行っている訓練内容は、使用機械に大きな差はなく実践により近い訓練をおこなっているのだと実感した。   |
| No.16<br>婦人靴製造    | 月型入れ、釣込みともに職人さんの仕事の早さに驚いた。作業一つ一つの助言に、「今行っている作業が、次の工程にどう影響を及ぼすのか」という含みがあり、流れ作業の全工程を理解しておくことの重要性を認識した。また、学校ではやらないようなデザインの製甲ができ、とても勉強になった。しかし、作業に手間取り、丸一日かけても一足が仕上がらなかったのが非常に残念だった。   |
| No.17<br>婦人靴製造    | 実習に当たり努力したことは、自分の力を出し切ることで、そして自分の技術を見てもらうつもりで努めた。実際の作業で感じたことは、作業の流れは同じでもプロの仕事はスピード、出来の良さがケタ違いでした。また、細かい点で随分とプロの技を教えていただいた。さらに、一日中気が抜けず、一日中ミスが許されないという良い雰囲気学んだ。今後、学校の作業に生かしたいと思う。   |
| No.18<br>婦人靴製造    | 4日間を通して、作業の過程で感じたことは、経験からくる判断が作業効率を良くすること、そしてどのような状況に対しても、培った経験と得てきたノウハウを活かして、問題解決に尽力していることでした。たくさんの経験を糧とし、全体の流れを把握し、与えられた作業を正確かつ迅速に処理することが重要だと感じた。今回の経験を活かし、更なる努力を自分に課せたい。  |
| No.19<br>紳士靴製造    | 1、2日目は、ラインの中での作業だったので、足数を上げるためスピードと正確さに気がつけた。3、4日目は、一足ずつアップパーを仕上げた。作業で感じたことは、一つのデザインで何十足も同じレベルに仕上げる難しさを実感した。また、仕事をしていく上で、いろいろな無駄を無くすことと、縦と横の連携を十分にとることが大切だと思った。  |
| No.20<br>婦人靴製造    | 作業内容は、学校の基本作業の応用が多く、メーカー独自のやり方が見られ、応用方法を学ぶことができた。その結果、基本作業の重要性を再認識するとともに、方法一つにしても創意工夫が必要であり、経験を重ねることの大事さを実感した。また、靴が仕上がるまで、各工程とも次の工程の作業の進め方や効率性を踏まえており驚いた。今回の体験はとても良かった。  |